



# 戦後 70 年を問う！

8.6ヒロシマ平和の夕べ ～ プレ企画 ～

## 核兵器・原発・優生思想

— “生きる”を否定するものに反対 —

◆とき **6月28日** (日)

開場 13:10 開会 13:30

◆ところ **高津市民館第 1・2会議室** 044-814-7603

JR 武蔵溝ノ口駅北口または東急溝ノ口駅東口から徒歩 2 分。  
駅とペデストリアンデッキで直結しているノクティ 2 の 11 階です。溝ノ口まで渋谷から田園都市線急行で 14 分。



お話：河野美代子さん (産婦人科医・広島被爆二世)

松本 正 さん (横浜市原爆被災者の会事務局長・広島被爆者)

白石 清春さん (被災地障がい者支援ふくしま代表・NPO 法人あいえるの会理事長)

費用：500円

主催：「戦後 70 年」を問う 6.28 実行委員会 (連絡先：080-4336-5734 喜多村)

8.6ヒロシマ平和の夕べ実行委員会

★ 毎年、8月6日広島市に開催されている「8.6ヒロシマ平和の夕べ」、戦後70年の今年、このプレ企画が沖縄、広島、兵庫で開かれ、そして川崎でもひとつの「つどい」が企画されています。

## ◆呼びかけ

第2次大戦後70年、今国会では集団的攻撃に参加するための戦争法案が審議されています。日本の侵略と植民地支配により犠牲にされてきた人々、広島と長崎で原爆の犠牲となった人々を再び踏みにじり、今なお続く戦争犠牲者の苦しみを無視するかのよう。

また、政府は強引に原発の再稼働を進めています。福島第一原発事故により12万人の福島県民が避難を余儀なくされているにもかかわらず。

他方、障害者の生を否定する優生政策が「新型出生前診断」の登場などによりますます強められています。このことは、障害者だけでなく、被爆者や原発被災者への差別も強めることとなります。

原発の押し付けなど農村・漁村が踏みにじられ、社会保障や労働法の改悪により市民一人一人が生きづらい状況に追い込まれ、毎年多くの人々が自殺に追い込まれています。福島県民の震災関連死も増え続けています。

なぜ、私たちはこのような社会を生み出してしまったのでしょうか。

「唯一の被爆国」などと語りながら、被爆者に厳しい差別を突き付けてきたこの日本社会。

被爆者の立場に寄り添おうと、もし、ほんとうにしてきたならば、原発建設を容認したでしょうか。

優生政策と隔離政策のもとに置かれ続けてきた障害者に真摯に向き合おうとしてきたならば、これほどまでに人を使い捨てにする社会にはできなかったのではないのでしょうか。

福島第一原発事故が突つけた現実には私たちが真剣に向き合うならば、国策による犠牲を2度と生み出さないために闘わなければならないはずです。

被爆者、被爆2世、福島の障害者をはじめ、様々な立場の方々にお集まりいただき、歴史的岐路にある今を考え合いたいと思います。

